

# 2016（平成28）年度 事業計画

社会福祉法人山鳩会  
幼児室ポッポ

## 1. 理念・方針

### （1）法人理念

#### ①障がいがある人に…

自分の持っている力を発揮しながら、普通の生活を営み、自らが社会に価値のあるものである事に気づき、自己実現していけるよう支援する。

#### ②障がいがある人の家族に…

障がいがある人への思いを受け止め、それを実現していく。

#### ③援助者には…

障がいがある人と共に歩みつつ、自己実現を図るために必要なサービスを提供し、常に向上的である人材に育てる。

#### ④地域の方に…

共に生きていく環境を実現するために、お互いにメリットのある関わりを築いていく。

### （2）中期目標（平成26年度～平成28年度）

大人との信頼関係を築き、友だちへの興味を育てる。家族の心の支えとなる。

### （3）基本方針

① 人格の基盤となる「人との基本的信頼感」を築くため、子どもたち一人ひとりをしっかりと受け止め、支えていく。

② 子どもたちがのびのびと自分らしくふるまえるよう、職員の在り方や環境整備を考えて保育にあたる。一人ひとりに即した遊びを見つけ、遊びを通して自己表現できるよう支援する。

③ 感性豊かに心身の発達を促すことのできるよう、自然からのエネルギーをたくさん体感できる保育内容を行う。

④ 身の回りのことを自分でしようとする気持ちを育てる支援を行う。

⑤ 社会の変化に伴い、孤立を深める母親や家庭の多様なニーズを敏感にとらえ、各家庭にそった支援を行う。

⑥ 行事を通して子どもたちの発達を促すと同時に、母親に対しても子育てを知る機会となる場を提供する。

## 2. 施設概要

- （1）施設種別 指定障害児通所支援事業（児童発達支援事業）
- （2）利用定員 10名（平成28年度利用者数15名）
- （3）開所年月 平成25年4月

(4) 施設規模	敷地面積	685.07㎡
	延床面積	36.85㎡(あきつの園の建物の中の一角)
	建物構造	鉄筋コンクリート造(地上2階建ての1階部分)
	賃貸区分	(土地)市有地 (建物)所有

### 3. 職員構成

#### (1) 雇用契約あり

職 種	配置人数
管理者	1名
児童発達支援管理責任者	1名(兼務)
保育士 (常勤職員)	2名
児童指導員 (常勤職員)	1名
調理員 (常勤職員)	0名
事務員 (非常勤職員)	0名
保育士 (非常勤職員)	4名
児童指導員 (非常勤職員)	0名
指導員 (非常勤職員)	2名
調理員 (非常勤職員)	0名
看護師 (非常勤職員)	0名
理学療法士 (非常勤職員)	0名
作業療法士 (非常勤職員)	0名
合 計	10名

※常時9～10名で支援にあたる

#### (2) 嘱託

小児神経科医師	(2～3回/年)	1名
看護師	(1回/年)	0名
理学療法士	(1回/月)	0名
作業療法士	(2回/月)	0名
臨床心理士	(1回/週)	1名
リトミック講師	(4回/年)	1名
合 計		3名

### 4. 利用者状況

#### (1) 障害程度

	1度	2度	3度	4度	未定	合計
愛の手帳	0名	1名	3名	2名	9名	15名
身障手帳	0名	0名	0名	0名	0名	0名
精神保健手帳	0名	0名	0名	0名	0名	0名

(2) 年齢構成 (平均年齢 4.0歳)

	新入園児		継続児		計
	男	女	男	女	
1歳児	0	0	0	0	0
2歳児	1	0	0	0	1
3歳児	3	0	1	0	4
4歳児	1	0	1	1	3
5歳児	0	0	5	2	7
計	5	0	7	3	15

(3) 担当福祉事務所

東村山市	東久留米市	練馬区	入間市			合計
15名	0名	0名	0名			15名

(4) 障害程度区分

区分	2	3	4	5	6	未定	合計
人数	0名	0名	0名	0名	0名	15名	15名

## 5. 日課

(1) 生活日程

9:00～9:50	個別指導(個別支援計画に基づき)
9:50～10:30	自由遊び
10:30～12:20	集まり、園外保育
12:20～13:30	手洗い、昼食、自由遊び
13:30～14:00	おやつ、紙芝居等、降園
14:00～16:00	必要に応じて個別指導・個人面談

## 6. 重点目標

(1) 市内の保育園の受け入れ体制の変化に伴うポッポの新たな役割への対応を行う。

23年度より障がい児枠の対象児を4歳・5歳から0歳～5歳に拡げた。そのため保育園の在籍児が優先的に数年間枠を利用することになり、保育園に入りやすくなった。

結果的に市内の待機障害児が増えている現状に対して、子どもの状態と家庭状況を考えて必要な支援を行う。

- ① 28年度は5歳児が7名、4歳児が3名で全体の8割を占めている。体力がついてきた4歳児・5歳児を週4日家庭で保育するには母親の負担が大きいため、隔週で4日の保育を行う。
- ② 必要な子どもには個別指導を行う。
- ③ 個別指導では体験できない友だち同士の関わりができる設定として、ポッポの集団指導では難しいが、他の子に目が向き始めた子が相手の子どもをより意識しやすい二人のグループ指導を行う。

- ④ 就学前の卒園児で個別指導と相談を必要とする子どもを受け入れる。
- (2) 幼児相談室がなくなるため、丁寧に母親に寄り添い母親支援に力を入れる。
- ① 週1日臨床心理士を配置する。希望する保護者に対して相談を受ける機会を設ける。
- ② 母親支援の経験がある常勤を1名増やし、いろいろな角度から支援の方法を考えていく。
- (3) 人関係を育てることを大切に考えるポッポの保育を継続していく。
- ① 人を大切にする保育＝子どもも保育者も大切に考える保育が経営的に成り立つよう様々な工夫をする。
- ② 常勤を1名増やし、安定した保育者数で安心な保育を行う。
- (4) 一人ひとりの障がいや心身の特性に応じた支援を行う。
- ①一人ひとりを大切にする支援を行う。  
療育の視点から毎日の細かな振り返りをし、柔軟に対応策を考えて、職員間で共有する。共有の仕方を工夫する。
- ②職員全体の支援の質を上げる。発達や障がい特徴をとらえるために日々勉強し、スーパーバイザーに日常保育における子どもの様子や支援の在り方を見てもらい、アドバイスを受ける。
- ③他機関とも密に連携をとり、情報を得て日々の支援に生かす。

(5) 年間行事予定

4月	新入園児母子通園(1～2週間)
5月	親子遠足(所沢航空公園)、
6月	小児神経科医師の診察・相談(新入園児対象)、水遊び開始、親子焼そば会
7月	夏期保育、個人面談、
8月	夏期保育、夏休み、
9月	バザー、水遊び終了、進路面談
10月	親子芋掘り遠足又は親子小遠足
11月	運動会、親子遠足(市民バスで昭和記念公園)
12月	個人面談、小遠足(八国山)
1月	冬休み、ホットケーキ作り
2月	豆まき、小児神経科医師の診察・相談(卒園児対象)、お別れ遠足
3月	個人面談、小遠足、春休み

(注)

誕生日会 誕生月毎に行う。

個人面談 年3回、保護者と成長について話し合う。その他必要に応じて行う。

個別支援計画 ・モニタリング

年2回ずつ、保護者との話し合いや説明の機会を持つ。

- 個別指導 個別支援計画に基づき行う。また、必要に応じて行う。
- 保護者会 年13回、母親の仲間意識と支えあいの気持ちを育て、子育てについて共に考える。気軽に話ができるよう2グループに分けて行う。
- リトミック 年数回、専門講師によって行う。

## 7. 防災訓練

災害時の利用者の安全を図るため、防災計画に基づき、月1回の防災訓練を行う。

## 8. 施設外の方との関係

地域に向けて情報を発信し、行事（秋津青葉子育てまつり）に参加してポッポの理解につなげる。

## 9. 実習生の受け入れ

- (1) 交流実習を行い、他施設の長所を学んだり、一時保育の子どもを理解してもらえるよう話し合いの機会を持つ。
- (2) 職場体験実習の受け入れ。

## 10. 親の会との連携

- (1) バザー・運動会に参加する。
- (2) 親の会総会資料及び親の会便りを配布して活動内容を知ってもらい、在園中の入会について説明する。

## 11. 職員研修

- (1) 視野を広め、子どもや社会への理解を深める。
  - ① ケア担主催の勉強会・交流実習・施設見学
  - ② 新日本医師協会東京支部主催、乳幼児の発達の部門の研修
  - ③ 白梅学園大学教育・福祉研究センター主催、白梅子ども学講座
  - ④ 明治安田こころの健康財団主催、乳幼児の発達の部門の研修
- (2) 経営の健全化や運営の適正化の推進、サービス内容の質の向上を図る。  
東京都福祉保健局主催、東京都福祉保健財団主催の研修

## 12. 会議予定

種 目	回 数	
職員会議	1回/週	子どもの様子・リスク・行事の話、研修報告
常勤会議	1回/週	保育内容・行事等についての打ち合わせ
ケース会議	1回/週	スーパーバイザーとのケース会議及び研修会
評価会議	6回/学期	学期末に子どもの成長と課題について話し合う
ケア担当者連絡会議	1回/月	市子ども育成課・子ども相談室・保育園との会議

### 13. 苦情解決、個人情報保護、権利擁護、セクシャルハラスメント防止

- ①子どもの権利を守る。
- ②苦情解決については、第三者委員を設置し対応に当たる。

#### 苦情解決

	氏名
責任者	柚山 芳江
担当者	中岡 里枝
第三者委員	江幡 房江

#### セクシャルハラスメント

	氏名
責任者	柚山 芳江
担当者（男性）	徳田 文雄
担当者（女性）	中岡 里枝

## 添付資料

～幼児室ポッポはなぜ手厚い保育を必要とするのか～

### ◎幼児相談室より

『乳幼児期の成長は著しいので、個人差が大きく一人ひとりに寄り添ってこそ、それぞれの個性にあった療育効果が期待できる。特に様々な特徴を持つ子ども達が通うポッポでは、その実現のために人員が必要になる。』

### ◎日本乳幼児精神保健学会を設立された小児科医の澤田敬 Dr. より

『ポッポの保育は、間主観的感性を利用しての治療と言える。』

間主観性とは～主観と主観の響き合い（心の響き合い）のことである。

言語的コミュニケーションも大切だが、もっと大切なのは言葉に表れない非言語的コミュニケーション（心の響き合い）である。“この子かわいい”と思っていたら、それに合ったやさしい言葉が出る。

↓

日常保育において、これからも保育者一人ひとりが間主観的関わりを常にこころがけ、子どもたちが安心して、その子らしくのびのびと過ごし、持っている力を十分発揮できる保育を続けていきたいと思う。そのために保育者にはこの間主観的感性が必要不可欠である。療育には思いやりと感性が必要であり、保育者には適性が求められる。そして、保育者が足りなければこの保育は成り立たない。

### ◎教育委員会教育支援課より

『ポッポに3年間通って特別支援学級に入った子どもが、小学校で生き生きと生活している。ポッポでの丁寧な人との関係が次の学校に行っても、新しい先生との信頼関係を築いている。』

### ◎交流実習の感想

- ・とても静かで子どもたちが落ち着いてのびのび過ごしていると感じた。（保育士）
- ・子どもたちがのびのびと遊んでいるという印象を受けた。干渉されることもなく、自分の素直な気持ちのまま遊ぶということに新鮮さを感じた。（作業療法士）
- ・一対一で担当制として一人の子どもを見ているため、ちょっとした変化や成長も感じやすいのではないかと思う。子どもによっては言葉を発しなかったり、音に敏感だったりして関わり方が難しい子もいるが、一人ひとりの想いを受け止め、子どもの想いを大切に、気持ちが落ち着くような関わり方も大事だと感じた。大人は一步下がり、“こどもが主役”という考えを持って保育していた。（保育士）
- ・発達障害の子どもたちの施設なので、子ども一人に対して大人が一人ついているので、子どもたち一人ひとりが自分の気持ちややりたいことを安心して伝えながら活動していた。一対一で関わってあげる大切さが重要なことだとあらためて感じた。（保育士）
- ・子ども一人に対し一人の大人が側につき、その子の思い・要求・興味のみを受容する。

本当にいけないことだけを身体を使い止める。子どもに対し「〇〇しようよ」と誘うこともなく、禁止もない中で子どもは担当の保育士に素直に表現をして受け止めてもらっていた。そんな中で子どもたちはポッポという場所が心地良い場所であることがよくわかった。

(保育士)

- ・保育者が子どもの小さな変化に気づき、喜び合ったり、情報交換をこまめにしているのも、皆が共通な視線であることを感じることでよかった。(保育士)
- ・「ここでは人との関係の基礎を築いてもらう。禁止・強制はなるべくせず、子どもそのままを受け入れる」と聞いた通り、許容的な雰囲気の中で子どもと関わった。自分の主な仕事と言葉を使っての面接になるので、ノンバーバルな世界で理解を深め関わりを探ることは大変勉強になった。(教育相談員)

～ポッポが大切にしていることは何？～

◎卒園する子どもの母親より、在園児の母親に向けて

『ポッポで3年間を過ごし集団生活を知らない〇〇ですが、ギリギリ2月半ばまで悩んだ結果、来年度からは〇〇〇小学校の支援級に通うことに決めました。放課後は障がい児枠で学童を利用します。

とても怖がりな〇〇は、ポッポの担当の先生が最初に心を許した大人でした。恥ずかしながらパパやママより担当の先生です。先生の次に心を開いたのは、ポッポに入園後の夏休みに生まれた妹です。妹とパパママの関係をみてようやく〇〇が親へ目を向けてくれました。そして今、「痛い・怖い」だから困っているんだという心の声を私たちに届け始めた所です。

そんな〇〇なので、ポッポでは担当の先生にへばりつき、お友達とは会話をせずに3年間過ごしました。でも、ポッポのお友達の名前は全員、すでに卒園したお友達も覚えています。「〇〇くん」と声をかけ続けてくれたみんな、ありがとう。「〇〇くんはみんな好きー」ってよく言います。

そんな〇〇が、1月の支援級の体験授業では、お友達の行動をよく見て自力でついていきました。みんなの前に一人で歩いて行き、自己紹介ができてしまいました。この様子に夫婦で涙です。

ポッポで自分自身の全てを認めてもらえた心の満足感、心豊かに穏やかに育てて頂けた経験が積もりに積もって、いつのまにか親の知らない逞しさや適応力、いざという時に頑張れるパワーに変わりました。

親の前では「何故？」的な行動が多くても、いざとなれば頑張れる時が必ず来るように思います。ポッポで頂いた心の蓄えは一生の宝です。』

◎卒園する子どもの母親より、担当の保育者に向けて

『一年間〇〇に愛情を注いでくださりありがとうございます。彼のこれからにおいても、とても大切な一年をポッポで過ごせたことをとても幸せに思います。親としても辛い現実と向き合わなくてはならない一年でした。〇〇と一緒にいるとももちろん幸せで、あの笑顔に何度すくわれたかしれません。それでも、一ヶ月に一度は息が詰まるほどしんどくて、一緒にいるのが大変で、そんな時

何の心配もせず100%安心して預けられるポッポさんの存在は大きかった。』

◎卒園する子どもの母親より、担当の保育者に向けて

『〇〇がポッポに通った三年間、ポッポから色々なことを教えていただいたような気がします。ポッポにいる時は右へならえの“いい子”になる必要はない。“正しいやり方”を教え込むのではなく「やってみようかな」という気持ちを大事にする。どんどん自分の心を前面に押し出して、笑いたくない時には笑わなくていい。我慢しないで泣いて突っばねる力を養い、どんな形であれ感情を表現する力を身に付けることで先生を振り回し、本当の自分を先生から受け入れてもらえる幸せを感じられること。そのままの自分を受け入れてもらえることこそが子ども自身の喜びとなり日々の小さな成長へと直結する。人に合わせて人と同じことができなくなってもいい、何も言葉だけがコミュニケーションのツールではない。「できるように頑張る」なんて必要ない。「できないことや苦手なことを克服するために頑張ろう」ではなくて、できない部分や苦手なことも全部、その子丸ごと受け入れてくれるのがポッポという場所でした。

・・・中略

何より、〇〇はこのままの〇〇で十分かわいいと私に気づかせてくれたポッポに感謝の気持ちでいっぱいです。』